



第316号
令和7年11月6日
瀬戸市立幡山中学校



瀬戸のまちなかに宿る芸術の息吹

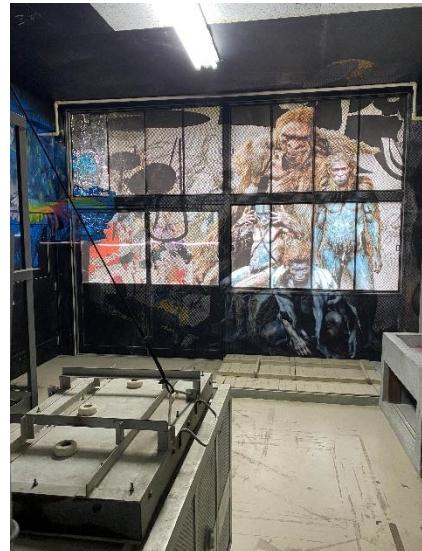
瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

11月7日は「立冬」。暦の上では冬の始まりとされる日です。校庭の木々が赤や黄に染まり、朝の空気には冬の訪れを告げるような凜とした冷たさを感じます。「ネックウォーマー、そろそろいるかなあ。」「肉まん、食べたいなあ。」そんな子ども達の声が聞こえてくる季節になりました。

さて、秋といえば、スポーツ、芸術の秋ですね。11月1日からの三連休は運動部の大会や吹奏楽部の発表を見に行くなど、秋を満喫しました。その合間に縫って訪れたのが、現在愛知県で開催されている国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2025」です。3年に一度開催される国際美術展で、今回は愛知芸術文化センターに加え、陶磁美術館、そして「瀬戸市のまちなか」が会場となっています。この「まちなか」の響きに惹かれ、休日の午後、少し汗ばむような陽気の中、尾張瀬戸駅周辺を歩きながら、11の美術作品を見て回りました。会場は陶磁器工場だったり、旧旅館、旧商店、旧銭湯だったりと様々で、中でも私は思い出の詰まった旧深川小学校の1階をキャンバスにしたアート作品に魅了されました。閉校となった旧本山中学校に勤めていた頃、校区の深川小学校は大変身近で、時々足を運んでいました。その懐かしい校舎の中で、廊下や教室、そして給食室がアーティストの手により、人類の平和を願うアートに生まれ変わり、生き生きとよみがえった校舎の姿に、思わず一人で涙ぐんでしまいました。

今回のトリエンナーレのテーマは「灰と薔薇のあいまに」です。世界で起きている人々を苦しめる悲しい出来事(灰)、そして、その中から見出される希望(薔薇)、その「あいま」にある葛藤や瞬間が表現されており、改めて世界の平和について考えさせられました。また、「瀬戸」の歴史や風土を生かしたテーマや表現を各アーティストが大切にしていることも目にし、普段見過ごしている何気ない瀬戸の街の光景が、とても美しいもの、尊いものであることにも気付くことができました。

「あいちトリエンナーレ2025」は、今月30日まで開催されています。芸術の秋、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



旧深川小 図工準備室の作品

文化祭・合唱コンクール

10月23日(木)瀬戸市文化センター

テーマ: 常笑 ~笑顔満祭~

瀬戸市文化センターでの舞台発表を中心に、2学期最大の生徒会行事「文化祭」を行いました。当日の吹奏楽部と1組の演奏、そして合唱コンクールは、みな心に響く素晴らしい発表でした。行事を通じて深めた仲間との絆を、今後の学校生活で生かしてほしいと思います。



1年・1組 和楽器「箏」の授業

10月30日(木)~31日(金)

午前 榜山中学校 視聴覚室

外部講師をお招きし、1年生・1組の音楽で和楽器「箏(こと)」を奏でる授業を行いました。日本の作法と慣れない道具を前に、はじめは戸惑う生徒ばかりでしたが、講師の方が丁寧に指導してくださり、音色の響きを楽しむ生徒の姿がみられました。



「アートでともだち」出前授業

10月31日(金) 3・4限

榜山中学校 体育館

瀬戸市文化振興財団の「学校アウトリーチ事業」の一環として、2・3年生を対象にプロの芸術家を招いた出前授業「アートでともだち」を行いました。アコースティックギタリストで作曲家・アレンジャーでもある「井草 聖二(いぐさ せいじ)」さんの演奏を聴いたりセッションをしたりして、音楽と共に深まる秋の一日を楽しみました。

